



陸
軍
混
成
歩
四
十
九
旅
団
砲
兵
隊

戰史資料

陸

一編成裝備關係

1. 自己部隊編成人員兵器彈藥

| | | | | |
|----|-----|-----|---------|----|
| 區 | 分人員 | 大隊計 | 主ナル兵器 | 彈藥 |
| 本部 | 七一 | | 重觀二 輕觀一 | |

| | | | | | |
|------|----|----|----|----|---------|
| 第七中隊 | 八〇 | 三一 | 野砲 | 八門 | 各門一五〇〇發 |
| 第八中隊 | 八〇 | | 榴 | 七門 | 各門一三〇〇發 |
| 第九中隊 | 八〇 | | | 七門 | 各門一三〇〇發 |

2. 職員表

獨立混成第四十九旅團砲兵隊職員表

砲兵隊長 陸軍少佐 松尾幾太

| 職階 | 氏名 | 職階 | 氏名 | 職階 | 氏名 |
|-------|------|-------|------|-------|------|
| 本部長 | 松尾幾太 | 第七中隊長 | 園田福松 | 第八中隊長 | 石橋登 |
| 第九中隊長 | 小林清見 | 連中 | 久保泉 | 連中 | 西岡晴高 |
| 副少 | 中尾義隆 | 副少 | 園田福松 | 副少 | 小林清見 |
| 指 | 橋本雪男 | 指 | 金子和年 | 指 | 村田守 |
| 醫 | 江田豊吉 | 醫 | 岡本武寿 | 醫 | 佐々木泉 |
| 主中尉 | 副島雅雄 | 主中尉 | 森貞次 | 主中尉 | 古泉善雄 |
| 主中尉 | 四郎 | 主中尉 | 四郎 | 主中尉 | 四郎 |

3. 人員兵器等増減關係

人員兵器、損耗、幹部以下、適切に指導努力後、全期間を通じて復員迄、戦病死合せて十二名ト敵機、連日、盲爆、依り彈藥若干ヲ損耗セシモ火炮二十二門、完全ニ保存セリ

4. 臺灣人朝鮮人現地島民使役關係

1. 台湾勤勞報國隊員十七名昭和二十年二月以降終戦ニ至リ迄永ク陣地、洞窟構築ニ協力ス
 2. 現地島民

(昭和十三年十一月、奉天歸納)

上陸當初約九十名、島民ハ主トシテ彈藥分散ニ抜カス
爾後約三十名(フェイス島民)ノ島民ハ終戦ニ至ル迄陣地構築
現地自治ニ全面的ニ協力シ且ツヤモ口族五十名全期間ヲ
通シ現地自治ニ協力セリ

二、部隊履歴、概要

部隊ハヤップ島派遣前滿洲東寧附近整備ニ任ジアリタル第
十二師團、野砲兵第二十四聯隊第三大隊ナリ
三、指揮隷屬關係其ノ變遷、概要
昭和十九年二月二十四日第四派遣隊編成下令セラレ同ニ十七日派

遣隊長江藤大佐、指揮シ「ヤッ子」島上陸後七月二日編
成改正ニ依リ獨立混成第四十九旅團砲兵隊ト改稱ス
四、作戰準備關係

一、作戰計畫、概要

第一次防禦方針 水際撃滅
防禦配備 水際配備(要圖参照)
第二次防禦方針 一部水際戦斗、主力持久防禦ニ変更
防禦配備 マタテ陣地

二、陣地、狀況

1. 水際陣地

1. 起工時期 昭和十九年五月
2. 所要人員 全力
3. 使用資材 大十字鉄、円匙、鶴嘴、鋸
4. 完成時期及強度 昭和十九年九月中旬竣。砲彈ニ抗スル程度ニ整備
口、永久陣地

1. 起工時期 昭和二十年三月

2. 所要人員 砲兵隊全カ各步兵大隊ノ約三十%後助
3. 使用資材 円匙、鶴嘴、鑿岩機、爆藥(ダイナマイト)
4. 完成時期及強度 第一期十月ニ。砲彈ニ抗スル洞窟陣地概成
3. 作戰準備關係ニ關スル主要ナル命令、内容(概要)

フェイス島か
引上り
のり

(昭和十三、十一、奉天監獄納)

1. 敵上陸時迄人員兵器彈藥徹底温存

口築城徹底訓練(名人化)

4. 軍需品集積状況

1. 糧秣副食昭和十九年七月迄主食自十月迄集積交付ヲ

受ケタルモ作戰一ヶ月ニ要スルモノ食延シ現地物資蒐集ホニ

依リ仕務達成ヲ圖リアリタリ

口兵器彈藥概テ上陸後一ヶ月ヲ以テ分散集積ヲ概成ス

ハ現地自活

糧秣補給杜絶シ十九年十二月末迄テ食ヒ盡ス状況ニ在リ

依テ決戰用糧秣ヲ残シ九月ヨリ食ヒ延シテ實施シ十二月

ヨリ二月迄全力農耕ヲ實施シ爾後築城ト併行シ甘藷

ニ依ル自活ヲ確立ヲ期ス

魚粉ハ島民利用ニヨリ困難ヲ克服セリ

5. 訓練狀況

1. 精神要素涵養

聖諭ヲ基トスル軍人精神涵養昂揚

口戰武技訓練

築城徹底ト併行シ各分隊毎ニ朝夕一時間ノ射撃訓

練ヲ重點トシ肉攻訓練ハ人員ヲ選定戰武技ノ向上ヲ期ス

五. 給養衛生

1. 給養

前述ノ如ク補給杜絶シ主食ハ昭和十九年末ヲ以テ食ヒ盡ス

状況ニ在リタルヲ以テ九月ヨリ食ヒ延シテ實施シ十二月ヨリ全力

農耕ニ移行シ山野ヲ開墾シ甘藷ヲ栽培シ昭和二十年四月

ヨリ甘藷ニヨル主食ノ自活ヲ期シ概テ五月ヨリ實施スルヲ得タリ

此ノ間昭和二十年一二月三月ハ食糧ノ危機ナリシモ食ヒ延シ

ト現地物資ノ利用ニ依リ幸ニテ危機ヲ脱ス

2. 衛生

給養不良ト水質不良藥品不足ニ依リ相當ノ衛生

(昭和十三年十一月奉天監獄納)

陸軍

的不利條件ノ下ニ將兵克ク一致協力健兵對策奏効
シ内地帰還迄病死四名ニ止マリ

六終戦ヨリ帰還時迄ノ行動ノ概要

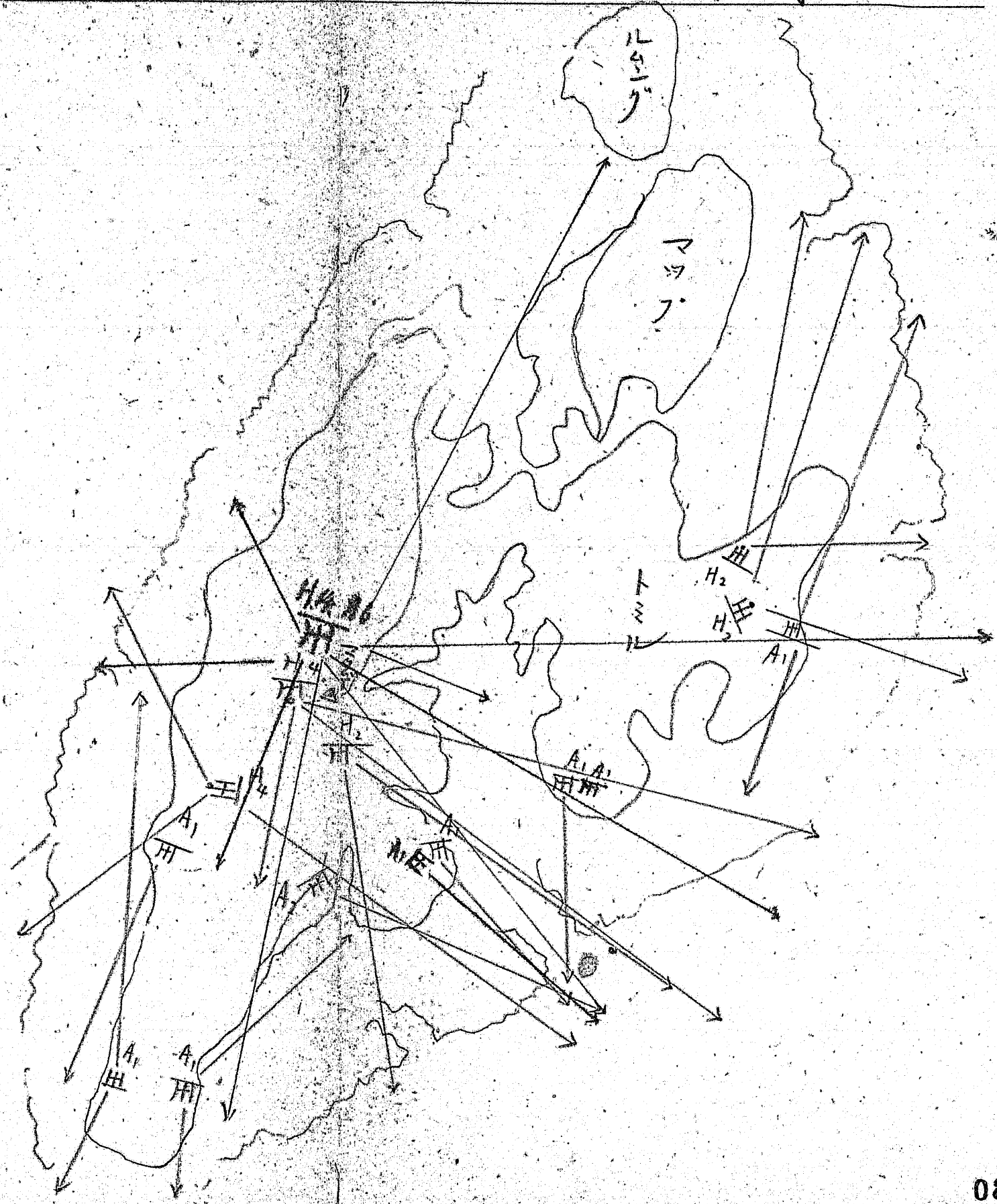
平和ヲ詔勅ヲ拜シ將兵一同一時呆然タリシモ詔承仕謹
爾後ノ本分ニ努カカスヘリ軍秩ヲ維持シ農耕自活等終
戦前ニ変ルコトナク整々ニ實施シ平静裡ニ帰還ス

(昭和十三年十一月奉天監修納)

0811

獨之混成第四十九旅團砲兵隊配備要圖

備考
 1. 鉛筆書ハ第一次(水際配備)
 2. 朱書ハ第二次(永久陣地配備)
 3. 野砲八門 十榴十四門



史実調査参考資料報告

独立混成第4旅団

砲兵隊



0813

浦賀上陸地支局

(昭和 廿年十二月十九日)

史実調査参考資料報告

摘要

| | | | | |
|--------------------------------|---|--|---------------|------------------------------|
| 所在地 | ヤツブ島 | 職官 | 旅團砲兵隊附 | 終戦時ノモ ウ記ス |
| 所属部隊 | 獨逸四九旅團砲兵隊 | 氏名 | 副島 雅夫 軍医大尉 | 職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス |
| 天那事変 以降ニ於ケル 自己ノ略歴 | 昭二七二一任 軍医中尉 一九四三 四 ヤツブ島着 廿八 廿 任 軍医大尉 廿一 二六 浦賀着 | | | |
| 所属部隊ノ 編成年月日 及編制裝備 ノ概要 | 昭二七二二 獨逸四九旅團砲兵隊編成完結 編制對裝備 本部 一 野砲中 一 八内 十榴中 二 各七内 | | | |
| 所属部隊 ノ概略 | ヤツブ島守備 | | | |
| 終戦(又ハ主 力ノ戦斗終 了)後ノ状況 | 現地自活 | | | |
| 帰郷(又ハ津 絡)先 | 福岡縣 | | | |
| 其他ノ参 考事項 | ナシ | | | |
| | | 帰還輸送 ノ状況ヲ 行記ス | | |
| | | 最後ノ所属 部隊ヲ主ニ 尚ソ以テ 所属部隊ノ 分ヲ概記 ス | | |

浦賀上陸地支局

(昭和二十年一月二十七日)

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

ヤツプロ島

職官

独立混成第九旅団砲兵隊

終戦時ノモ

所屬部隊

独立混成第九旅団砲兵隊

氏名

陸軍中尉 久保泉

ヲ記ス

支那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴

昭一八、九、一五 砲兵隊
昭一九、二、二四 第四旅団編成下令
昭一九、四、二四 ヤツプロ島着
昭二〇、一、二六 内地帰還

職ノ変更及
テナル参加
戦斗名ヲ
記ス

所屬部隊ノ編成年月日

昭一九、二、二四 第四旅団編成下令同二九 編成定結
昭一九、七、二 独立混成第九旅団砲兵隊編成

及編制整備ノ概要

定結
編成整備

本部 一 野砲八門
十榴中二十榴各七門

最後ノ所屬
部隊ヲ主ニ
尚ソ、以テ
所屬部隊ノ
分ヲ概記
ス

所屬部隊ノ作戦経過ノ概要

特記事項ナシ
昭一九、三、七 釜山攻撃
四、二四 ヤツプロ島上陸、爾後同島警備

終戦又ハ主力ノ戦斗終了ノ後ノ状況

特記事項ナシ

帰還輸送
ノ状況ヲ
行記ス

帰郷又ハ連絡ノ先

佐賀縣

其他ノ参考事項

ナシ

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十八日)

史実調査参考資料報告

砲兵隊副官

摘要

所在地

南洋郡島ヤブ島

職官

陸軍少尉

終戦時ノモ
ウ記ス

所属部隊

獨逸四九旅砲兵隊
(備前第七五二部隊)

氏名

中尾 義隆

職ノ変更及
戦斗名ヲ
記ス

支那事変
以降ニ於テ
自己ノ略歴

所属部隊ノ
編成年月日
及編制裝備
ノ概要

昭和十九年九月五日豊後陸軍教導学校卒業。昭和三十五旅団長
昭和三十七年八月五日豊後旅団長。昭和三十八年八月五日
計六千六百名を率いて南洋へ赴任。同七月七日南洋に上陸。昭和三十九年
陸軍第五師団第一旅団長に任ぜられた。昭和三十九年八月五日
昭和三十九年八月五日南洋に上陸。昭和三十九年八月五日
昭和三十九年八月五日南洋に上陸。昭和三十九年八月五日
昭和三十九年八月五日南洋に上陸。昭和三十九年八月五日
昭和三十九年八月五日南洋に上陸。昭和三十九年八月五日

所属部隊
ノ概要

特記事項
昭和三十七年、釜山に於
同 昭和三十九年南洋に上陸後同島に駐留

最後ノ所属
部隊ヲ主ニ
尚ソハ以テ
所属部隊ノ
分ヲモ
概記
ス

終戦又ハ主
力ノ戦斗終
了ノ後ノ状況

特記事項

帰還輸送
ノ状況ヲモ
概記ス

帰郷(又ハ津
絡)ノ先

佐賀縣

其他ノ参
考事項

浦賀上陸地支局

(昭和二〇年一月二七日)

史実調査参考資料報告

| 所在地 | マツノ島 | 職官 | 獨逸隊第九旅團砲兵隊 第七中隊 小隊長 陸軍少尉 森貞次 | 終戦時ノモ ウ記ス |
|--------------------------------|---|----|------------------------------------|---|
| 所屬部隊 | 獨逸隊第九旅團砲兵隊 | 職官 | 獨逸隊第九旅團砲兵隊 第七中隊 小隊長 陸軍少尉 森貞次 | 職ノ変更及 ニアル者加 戦斗名ヲ 記ス |
| 支那事変 以降ニ於ケル 自己ノ略歴 | 昭和十八年十一月一日 任陸軍少尉 昭和十九年二月二十五日 第四派遣隊編成下令 昭和十九年四月二十四日 ヤツノ島到着 昭和二十年五月一日 砲兵隊第七中隊小隊長 昭和二十年一月二十六日 内地歸還 | 職官 | 砲兵隊本部附 | 職ノ変更及 ニアル者加 戦斗名ヲ 記ス |
| 所屬部隊ノ 編成年月日 及編制裝備 ノ概要 | 昭和十九年二月二十四日 第四派遣隊編成下令 同年四月二十五日 編成完結 昭和十九年七月二日 獨立混成第九旅團砲兵隊編成完結 編成裝備 本部 野砲中隊 一 十榴中隊 二 | 職官 | 野砲八門 十榴各七門 | 最後ノ所屬 部隊ヲ主ニ 尚ソ以テ 所屬部隊ノ 分ヲモ 概記ス |
| 所屬部隊 ノ戰經過 ノ概要 | 特記事項ナシ 昭和十九年三月七日 釜山出發 昭和十九年四月二日 ヤツノ島上陸 爾後日島守備 | 職官 | 野砲八門 十榴各七門 | 最後ノ所屬 部隊ヲ主ニ 尚ソ以テ 所屬部隊ノ 分ヲモ 概記ス |
| 終戦(又ハ主 力ノ戰斗終 了)後ノ狀況 | 特記事項ナシ 米軍作業ニ從事 | 職官 | 野砲八門 十榴各七門 | 歸還輸送 ノ狀況ヲモ 概記ス |
| 歸郷(又ハ連 絡)先 | 福西縣 | 職官 | 野砲八門 十榴各七門 | 歸還輸送 ノ狀況ヲモ 概記ス |
| 其他ノ參 考事項 | ナシ | 職官 | 野砲八門 十榴各七門 | 歸還輸送 ノ狀況ヲモ 概記ス |

浦賀上陸地支局

(昭和二年一月二日)

史実調査参考資料報告

| 所在地 | 職官 | 職名 | 摘要 |
|--------------------|---------------------|--------|--|
| ヤツブ島 | 独立混成第九旅團司令部 | 方七中隊隊長 | 終戦時ノモ ウ記ス |
| 支那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴 | 昭和二年十月十日 任陸軍少尉 | 方七中隊附 | 職ノ変更及 テナル参加 戦斗名ヲ 記ス |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年二月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 最後ノ所屬 部隊ヲ主ニ 尚ソ以テカ 所屬部隊ノ 分ヲモ概記 ス |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年三月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年四月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年五月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年六月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年七月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年八月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年九月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年十月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年十一月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年十二月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年一月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年二月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年三月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年四月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年五月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年六月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年七月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年八月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年九月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年十月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年十一月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年十二月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年一月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |
| 所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要 | 昭和十九年二月十日 方四旅團編成下旨 | 編成完結 | 特記事項ナシ |

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十八日)

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

南洋諸島ヤップ島

職官 陸軍中尉

終戦時ノモ
ウ記ス

所屬部隊

備一七五一部隊

氏名

佐々木泉

支那事変
以降ニ於ケル
自己ノ略歴

○昭和一七二一〇西部ヲ五二部隊入營。昭一七四二七滿洲
ヲ一ニ部隊轉展東滿國境警備。昭一七四二八大里米
才陸軍予備士官學校卒業東隊復歸。昭一八二一三少尉
任官。昭一九四四四ヤップ島到着警備。昭一九四八二〇
陸軍中尉任セラル。昭一九四四一昭一九四八二〇ヤップ島警備戦務
獨立混成才四九旅團砲兵隊編成完結一昭一九七七二

所屬部隊ノ
編成年月日
及編制裝備
ノ概要

編成裝備
九五野砲一隊一八門
十榴二隊一十四門
指揮機關一隊一主トシテ觀測通信器材

所屬部隊
ノ戦績經過
ノ概要

自四月至五月内ヤップ島守備
至六月至八月内ヤップ島(光武)防
至六月至八月内ヤップ島(光武)防
至七月至九月内ヤップ島(光武)防
自四月至五月内ヤップ島守備
自六月至八月内ヤップ島(光武)防
自七月至九月内ヤップ島(光武)防
自九月至十月内ヤップ島(光武)防
自十月至十一月内ヤップ島(光武)防
自十一月至十二月内ヤップ島(光武)防

最後ノ所屬
部隊ヲ主ニ
尚ソ以テ
所屬部隊ノ
分ヲモ
概記ス

終戦(又ハ主
力ノ戦ヲ終
了)後ノ状況

現地自活ヲノ農耕作業
米圃ノ耕作業

帰還輸送
ノ状況ヲモ
行記ス

帰郷(又ハ連
絡)ノ先

留守担当者現任所 福岡縣

其他ノ参
考事項

本籍福岡縣

浦賀上陸地支局

(昭和廿。年十二月廿七日)

史実調査参考資料報告

| | | | |
|--------------------------------|--|---|--------------------|
| 所在地 | ヤツノ島 | 職官 独立混成第九旅團砲兵隊長 陸軍中尉 外山重親 | 摘要 終戦時ノモ ウ記ス |
| 支那事変 以降ニ於ケル 自己ノ略歴 | 昭一七、一、一 任陸軍少尉 昭一九、二、二四 第四派遣隊編成下令 昭一九、四、二四 ヤツノ島到着 昭一九、九、一五 任陸軍中尉 昭二〇、一、二六 内地帰還 | 職一変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス | |
| 所屬部隊ノ 編成年月日 及編制裝備 ノ概要 | 昭一九、二、二四 第四派遣隊編成下令 昭一九、七、二 独立混成第九旅團砲兵隊長編成完了 編成 裝備 本部 野砲中隊 一 野砲八門 十榴中隊 二 十榴各七門 | 最後ノ所屬 部隊ヲ主ニ 尚ソノ以テ 所屬部隊ノ 分ヲモ概要 ノ入 | |
| 所屬部隊 ノ戦經過 ノ概要 | 特記事項 昭一九、三、七 釜山出発 昭一九、四、二四 ヤツノ島上陸 爾後同島警備 | | |
| 終戦(又ハ主 力ノ戦斗終 了)ノ状況 | 特記事項 ナシ | 帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス | |
| その他ノ参 考事項 | ナシ | | |

史実調査參考資料報告

摘要

所屬部隊
(固有名)

獨立混成第四旅團
砲兵隊

職官

中隊附 陸軍中尉

終戰時ノ
ヲ在ス

所在地

ヤツプ島

氏名

金子知年

支那事変以
降ニ於テ自
己ノ略ヲ

昭和十八年十一月一日陸軍少尉ニ任官以テ滿洲東寧縣
大樹子ニ在リテ國境警備ニ従事
昭和十九年三月二十日第四混成旅團編成下合ニ在リテ編成定法
ヤツプ島ニ進駐同年七月二日第四旅團編成定法
ハヤツプ島ニ在リテハラオ外射防空戦ニ従事終戦時
至ル

職更及
主ナル参加
戦斗名ヲ
記ス

所在部隊ノ
編成年月日
及編制裝備
ノ概要

昭和十七年三月十四日第四混成旅團編成下合
二月二十九日編成定法
昭和十九年六月二十九日昭和十九年軍令陸甲第十五号ニ
ヨリ臨時編成下令獨立混成第四旅團ト改稱
七月二日編成定法

最後ノ所屬
部隊ヲ主ニ
記ス

新編部隊
ノ概要

昭和十九年四月一日ヨリ四月三十日ヤツプ島守備
六月二十五日ヨリ六月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
七月二十九日ヨリ八月十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
八月十一日ヨリ八月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
九月十一日ヨリ九月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
十月十一日ヨリ十月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
十一月十一日ヨリ十一月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
十二月十一日ヨリ十二月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
昭和二十年一月一日ヨリ一月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
二月十一日ヨリ二月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
三月十一日ヨリ三月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
四月十一日ヨリ四月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
五月十一日ヨリ五月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
六月十一日ヨリ六月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
七月十一日ヨリ七月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
八月十一日ヨリ八月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
九月十一日ヨリ九月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
十月十一日ヨリ十月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
十一月十一日ヨリ十一月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル
十二月十一日ヨリ十二月三十日ヤツプ島(警備)防室勤シ奉ル

分ヲ概
記ス

終戦又ハ主
力ノ戦斗終
了ノ状況

一部隊主力ハ昭和二十年十二月十日迄米例ニ要求ニ
ヨリ復旧工事ニ従事
二 砲兵隊(部隊一部)ハ昭和二十年二月二十五日迄
道路作業ニ従事 二月二十五日 駆逐艦移乗
ニテ内地帰還

帰還輸送
ノ状況ヲモ
併記ス

その他ノ参
考事項

十

備考
昭和二十年第一復員省史実部ニ送付ス

